

ガラテイーと同じく子供服地家庭用服地等丈夫にして能く洗濯するものに用ひらる。

(v) $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{キヤシユメヤ} \end{matrix}$

英國産綿キヤシユメヤの標準を示せば次のやうである。

幅	長	經絲	緯絲	密度
56 ¹ / ₂ 吋	90 ⁺ - ⁺ 吋	36番	28番	52 [*] ×140 [*]
41	"	"	40	80×104
32 ¹ / ₂	"	32	28	78×114

(ロ) 四枚綜 $\frac{3}{1}$ 斜紋

(i) $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{デニム (denim)} \end{matrix}$

$\frac{2}{1}$ 斜紋の事あれ共多くは $\frac{3}{1}$ 斜紋にして經絲は青又は褐色に染め白緯絲を打込みたる厚地綿布である、労働者の上掛等に使用される。

24番×18番—60×60本, 9番×16番—68×42本,

10—14番×12—16番—66—90×50—56本。

(ii) $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{ダンガリー (dungaree)} \end{matrix}$

デニムと同様のものなるも色緯絲を打込みたるものである。

(ハ) 四枚綜 $\frac{2}{2}$ 斜紋

(i) $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{シーティング} \end{matrix}$

寢臺用の厚地の白綾綿布である、 $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{ベッド・シーティング} \end{matrix}$ 或は $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{ボルトン・シーティング (Bolton sheeting)} \end{matrix}$ とも呼ばれる。

幅廣く120¹/₂に達するものもある。

$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{コンデンサー・シーティング} \end{matrix}$ とは其名稱通り太き屑綿紡績絲を緯に打込みたるものである。 $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{アメリカン} \end{matrix}$ 又は $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{アメリカン・シーティング} \end{matrix}$ と稱するのは厚地の平のシーティングである。

(ii) $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{シャルーン} \end{matrix}$

本來のシャルーンは $\frac{2}{2}$ 斜紋に組織せる毛織物なるも次の如き絲使ひを有する $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{アメリカン・トゥイル} \end{matrix}$ なる綿布をシャルーンと呼むで居る。

幅	長	經絲	緯絲	密度
32 ¹ / ₂ 吋	116 ⁺ - ⁺ 吋	32番	26番	72×76本
"	"	34	36	60×61。

(ニ) 五枚綜 $\frac{4}{1}$ 斜紋

$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{ビートライス (beatrice)} \end{matrix}$ 裏地用緯斜紋綿布

幅	長	經絲	緯絲	密度
36 ¹ / ₂ 吋	90 ⁺ - ⁺ 吋	36番	32—34番	72×116—120本。

(ホ) 各種緯斜紋の名稱

$\frac{1}{3}$ アルバート $\frac{1}{5}$ マーベル

$\frac{11}{41}$ プリンセス $\frac{11}{51}$ ヴィクトリヤ。

78. $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{サタン・ド・リヨン (satin de Lyon)} \end{matrix}$

經緯共に絹練染絲を用ひ $\frac{2}{1}$ 斜紋を組織せしめたるものであるが、細き經絲を密に配置し太き緯絲を割合

に少なく打込む故出来上がりの斜紋線は殆んど垂直に近い形となり織物の表面は一見縐子に類似したる外観を呈する故特にサタンと呼ばれ得るのである。而して裏面は表面と全然異なり極めて優しき横畔形を呈して居る。

佛國製の一例を示せば

經絲 諸撚 22^{テール} 練黒染

緯絲 " 22 " スーブル練黒染 3本引揃

箆 1^{テール}に 100羽 6本入り

綜統 12枚

耳 グロド・ツール 綜統 4枚

打込 1^{テール}に 72本

織縮 經 6% 緯 1%。

●●●●●●●●●●
サタン・ドリヨン・クレープ

サタン・ドリヨンを縮緬絲にて作りたるものである、緯絲の打込數を尙少なくし其結果外観は畔織の如く見へ手觸り柔かくアイリツシユ・ボブリンに類似して居る。一例を示せば

經絲 14^{テール} 生絲 2本引揃へ

耳 " 片一本諸 2本引揃へ

緯絲 $\frac{2}{10}$ 番梳毛絲強撚(1^{テール}に1600回)

箆 1^{テール}に 70羽 4本入り

綜統 12枚

打込 1^{テール}に 72本

織縮 經 5% 緯 3%。

之等サタン・ドリヨンの名稱を冠せらるゝ織物は何れも $\frac{2}{1}$ 斜紋を使用し居る故此組織をサタン・ドリヨンのとも呼むで居る。

79. ●●●● (Batavin)

$\frac{2}{2}$ 斜紋を用ひたる手觸り善き婦人服地用絹布である。絲使ひに種々あれ共標準品と見らるべきものゝ一例を示せば

經絲 17^{テール} 生絲 2本引揃へ

緯絲 佛⁵⁰⁰番絹紡

箆 1^{テール}に 80羽 2本入り

打込 " 108本。

サタン・ドリヨンと同じく此織物も $\frac{2}{2}$ 斜紋を用ひたる絹布中の名ある織物なる故之より轉じて $\frac{2}{2}$ 斜紋組織を普通にバタビヤと稱する事がある。

80. ●●●● (foulard)

生絲にて織り後精練して捺染するを普通とす、組織は $\frac{2}{2}$ 斜紋を普通とし $\frac{3}{1}$ 斜紋之に次ぎ又平織のものもある、平織なれば結局本邦産の羽二重と同様になり中目及重目羽二重に捺染したるもの亦フーラーと稱する事が出来る。

比較的上物と思はるゝ米國製フーラー生地の一例

を示せば

經絲 日本生絲極上等品 14^{デール} 2本引揃へ
 緯絲 " エキストラ格 14^{デール} 三本片燃
 箆 1^{インチ} 66羽 2本入り 計4本入り
 打込 " 128本
 織縮 經 5% 緯 2.5%。

斜紋組織の本來のフーラーを $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & & & & & & & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$ (sergè foulard) と稱する事がある。

81. $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & & & & & & & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$ (Polonaise)

生絲 1本のまゝか或は 2本引揃へて經絲とし之に太き綿絲を打込みたる絹綿交織である組織は $\frac{7}{1}$ 斜紋多く $\frac{5}{1}$ 及 $\frac{11}{1}$ もあり更に $\frac{71}{11}$ 或は $\frac{82}{11}$ を使ふ事もある。一般に強い仕上を施こし主として帽子の材料に用ひられる。

絲使ひには種々あり普通品の一例を示せば經絲 14^{デール} 生絲, 1^{インチ} 60羽 2本入り, 緯絲 27番綿絲打込 96本位である。上等品は 11 或は 12^{デール} 2本引揃へ, 80羽乃至 115羽 3本又は 2本入り, 緯絲の太さ及密度は上例と甚だしき差別は無い。

82. $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & & & & & & & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$

最近のサタン・デュシユーズの作り方の傾向を纏むれば大略次のやうである。

經絲 14^{デール} の片一本諸練染なる事は變り無いが、

普通の縞子經の燃は $\frac{1}{10}$ 回なるべきを上燃を僅か 10 回位の甘燃にする, 織るに當りての強力は之にて十分與へられて居り且つ甘燃のため手觸り, 外觀光澤等優秀なるものを作る事が出来る。純粹染めの事あれ共増量物も多くその程度は色物 16^{インチ} 黒地 22^{インチ} 位である。

箆 1^{インチ} 60羽 4本入りを普通とするも, 65—4, 70—4, 75—4, 80—4, 70—5, 70—6 等の如き羽數及引込もある。

緯絲 14^{デール} の四本, 五本, 六本片或は以上の物あれ共六本片を標準とする。燃數は 1^{インチ} 3回, スーブル練, 色物は 24^{インチ} 増量を普通とし $\frac{24}{25}$, $\frac{26}{25}$, $\frac{26}{30}$ 或は以上に達するものもある, 黒物は増量甚だしく $\frac{26}{25}$ を普通とし時には 40 或は以上に達する事がある。

打込 六本片スーブル 1^{インチ} 84本 八枚縞子
 四 " " " 124 " 十二枚 "

83. $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & & & & & & & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$

經緯共に絹練絲を用ふる事同種織物たるメツサリオン並にデュシユーズと同様なるも組織として七枚綜縞縞子を用ひたるものである。一般縞子織には五枚又は八枚を用ふる事多く七枚縞子の如きは極めて特殊の例である。絲使ひの一例を示せば

經絲 諸燃 20^{デール} 練染 5割増量

緯絲 片撚30^{テール} 練染10割増量

箆 1^{インチ}に67.5羽 4本3本交互

打込 1^{インチ}に62本

84. $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{リ} & \text{パ} & \text{チ} & \text{ー} & \text{サ} & \text{テ} & \text{イ} & \text{ン} \end{matrix}$

織物の面を奇麗に仕上げるために経絲は上等の14^{テール}位の生絲を1^{インチ}間240本より400本迄位使用す、八枚縹子とすれば箆は4本入りとして60,65,70,75,80,90,95或は100羽となる。而して普通の上等品として扱はるゝ所は80羽即ち320本見當の所である。

緯絲には60番紡績絹絲を1^{インチ}に80本乃至100本位打込むが92本位を最も適度とする。時には¹⁰⁰/₈₀番を使用する事がある、出来上がりは可なるも價格の點より喜ばれない。又80番を104,112或は120本位打込むだものもある。

仕上に際し増量せざるを普通とするも近年は約25%位の増量せるものが多いとの事である。

85. $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{綿} & \text{緯} & \text{縹} & \text{子} \end{matrix}$

近時米國に於いて用ひらるゝ服裏地並に箱類裏張り用の綿緯縹子は経絲に専ら14或は15^{テール}位の生絲を用ひ緯絲には精選したる綿絲を打込む。

この綿絲は節の無き事を必要條件とするは勿論後にて染むべき色相をも考へて紡績するのである。例へば黒地物なれば梳綿工程は普通絲の如く一回にて

可なるも、濃色物に對しては梳綿工程を繰返して行ひ、中色並に淡色物には精梳綿工程を要求し、更にクリーム色に染むべき物或は白仕上を欲する時は二回の精梳綿を行はしめ以て雜物の附着せざる良絲を紡出するのである。

箆は1^{インチ}に50羽を粗とし120羽を密とし其間60,65,70,75或は80羽を普通とし90或は100羽位の物も亦多い、引込は1羽4本入りとするも稀に2本入りの如く粗くする事もある。

緯絲は25番内外の太さの物最も多く1^{インチ}に80乃至84本位打込む。

織上後精練染色し且固仕上とするが服地に用ひんとする場合には柔仕上にするのである。

86. $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{ポ} & \text{プ} & \text{リ} & \text{ン} \end{matrix}$

(1) $\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet & \bullet \\ \text{アイ} & \text{リ} & \text{ツ} & \text{シ} & \text{ユ} & \text{ポ} & \text{プ} & \text{リ} & \text{ン} \end{matrix}$

経絲には従來諸撚絲を使用せしが近時上等の生絲21^{テール}位の物を綜統1目2本入りとして使用する事が多い。箆は1^{インチ}に60羽の3本入りとし合計1^{インチ}に360本の配列となる、或は70—3,50—3,70—2本の如き引込のものもある。

緯絲用梳毛絲に付きては綿ポプリンの夫と同じく出来得る限り丸味を持たせるために二本諸よりも三本諸更に四本諸を可とするも合絲數の増す毎に單絲

番手細くなり紡出困難なるを以て比較的上等品と目するものにもありても三本諸を普通とし其の太さは $\frac{2}{40}$, $\frac{2}{50}$, $\frac{2}{60}$ 或は $\frac{2}{70}$ 番見當の所が多い。

此際普通の諸絲を用ふるも妨げないが出来得るならば絲の丸味を一層完全にするため幾分か強燃にする事が望ましい事とされて居る。但その程度は機械中に於いても亦仕上工程中に於いてもその強燃のために何等の收縮をも來さない範圍でなければならぬ。且又仕上に際し經絲の滑りを能く防ぐために單絲の燃と同方向に上燃を掛けたものが善いやうである。

打込数は上記の太さの見當にして1^{inch}に32本乃至60本位である。

下等品になれば12番乃至30番位の單絲を打込む事がある。單絲と雖も出来得れば紡績後瓦斯焼を施し絲の表面に突出せる毛羽を燒盡すべきである。

梳毛絲を瓦斯焼きする時は其工程をガツシング(gassing)と云はず特にセナツピング(genapping)と云ふ。

瓦斯焼きせる三本諸絲を使用せる場合でも織上後には必ず又瓦斯焼を行はなければならぬ。

梳毛絲の代りに綿絲を用ひたる代用品もある、稱して綿緯ポブリン(cotton-filled poplin)と名づける。

(ロ) 綿ポブリン

綿ポブリンに經緯共に同番手の細き上等の絲を用

ひ經絲の密度を緯絲より2倍多くせる上等物がある、織上後漂白並にシルケツト掛を行ひ染め或は捺染を施し或は絲染にして後で漂白する事もある。専らシャツ並に服地に用ひられ主として英國産である。絲使ひの數例を示せば

	經絲	緯絲	密度(1 ^{inch} に付き)
1.	$\frac{2}{100}$ 番	$\frac{2}{100}$ 番	156 [*] ×76 [*]
2.	"	"	152×76
3.	"	"	148×76
4.	"	"	144×74
5.	$\frac{2}{90}$	$\frac{2}{80}$	144×70
6.	$\frac{2}{80}$	"	110×60


絲は元よりエヂプト棉を用ひ精梳棉工程を行ひ且瓦斯焼を施す、經絲用の物は普通の双絲と同じく上燃を施すも緯絲用の物は上燃を下燃と同方向に施す。斯くして織物の光澤は専ら經絲にて表はし緯絲は丈夫にして且畔をより一層明瞭ならしめるのである。

●●●●● (poplinette)

或は單絲●●●●●とも稱し其名の如く經絲に双絲又は單絲、緯絲には専ら單絲を用ひたる下等の綿ポブリンである。縞物もあり又捺染物もあり且絲使ひ等種々あれ共何れも仕上に注意しシルケツト掛とし十

分光泽を出さしめ上記綿ポプリンと同じくシャツ地並に服地に使用せられる。本邦にては未だ此種織物を結果善く作製し得ず俗に絹ポプリンの名称の下に取扱はれて居る。


経糸	緯糸	密度
$\frac{2}{100}$ 番	50番	156×74
$\frac{2}{90}$	50	128×68
$\frac{2}{80}$	40	122×70
60	50	132×70
50	50	144×76
50	50	132×68
50	50	132×60
50	50	108×68
42	42	128×60
40	40	124×62
40	32	128×60
40	32	108×64
32	32	116×56
32	32	108×64
42	20	140×52
42	10	140×38
32	10	96×34

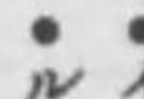
87.  (haircord)

経緯共に綿單絲を用ひ平組織に於いて奇數或は偶數の經絲を2本引揃へとなし結局 $\frac{2}{1}$ 緯絲畔織たらしめて縦の方向に輕きコードを表はしたるものである。2本の經絲が燃合はず並列せしむるためには綜統の目に別々に引通す事が大切である。

縞或は格子縞に作り或は捺染して夏向婦女子服地に多く使用される、英國物の數例を示せば

42番×40番—96^{*}×86^{*}, 40×36—90×80
36 ×39 —78×80, 50, 32×32—72×84

本邦にては近年此種織物中捺染物の製造行はれト  プラレコなる名稱の下に賣出されて居る。

88.  ルイジン

米國製の一例を示せば

經絲 14^片—^片一本諸 $\frac{16}{18}$ ^{増量} 2本引揃へ
緯絲 " 四本片 $\frac{22}{24}$ ^{増量}

經絲を3本引揃へとするか或は三本諸の2本引揃へとすれば緯絲は六本片を用ひなければならぬ。

仕上方法としては薄いゴム引布揉み、カレンダー通し等を行ふ。

89.  テープ (tape)

麻絲を以て作る事あれ共綿テープを一般に多く使用する。

組織は織物全幅を1循環とせる $\frac{2}{2}$ 斜紋基礎の山道

斜紋である。幅は $\frac{1}{2}$ 乃至 $\frac{3}{4}$ 位の所が普通で織機1臺にて約20本位相列べて同時に作る、綜絨4枚山道通しとし全幅に共通に使用する。

外國製の薄地の一例を示せば

經絲 36番
緯絲 40"
箴幅 $\frac{5\text{inch}}{8}$
羽數 29羽 1羽2本入、但中央は3本入り
全經絲數 59本
打込數 1^{inch} 46本

本邦製の一例を示せば

經絲 $\frac{3}{10}$ 番
緯絲 "
仕上幅 曲6分
全經絲數 63本
打込 曲1寸に40本。

英國にては麻製のテープをダッチ・テープ(Dutch tape)と稱し幅を表はすに全經絲數を以てする、其範圍は11本より151本迄位である。

90. 縞シャツ地

(イ) オックスフォード・シャーチング(Oxford shirting)

比較的厚地の光澤ある縞綿布にして經絲は2本引揃へとし緯に甘燃の太い絲を打込み柔かく仕上げる

經絲の縞は黒或は茶系統を用ふるも地の大部分は漂白又はシルケット掛けせる白い絲を用ひ、緯絲には殆んど染絲を使はない。

組織は平織の事もあるが斜子も相應に使はれる、此場合の斜子は特にマツテイング・オックスフォード(matting)と名づける、或は斜子と畔織を適宜縞の形に配列する事もある。特に經絲を一本のまゝ使用せるものをシングル・ウオーブ・オックスフォードと呼び或はローゼツフハー(low zephyr)とも云ふ事がある。

標準品の絲使ひを示せば

	經絲	緯絲	密度(1 ^{inch})
1.	36番×2本	14番	$56^* \times 2 \times 52^*$
2.	40 × 2	10	40 × 2 × 40

(ロ) ハーグワード・シャーチング(Harvard shirting)

地合は $\frac{2}{2}$ 斜紋を基礎とし之に畔織他の斜紋等を適宜配列せるものである、絲の品質は前者より幾分劣り且つ縞絲多く幾分黒味勝ちである。

91. ロヤール(royale)

$\frac{2}{2}$ 經絲畔織を基礎とせる變化畔織の代表的應用織物としてロヤールを擧げる事が出来る。經絲12本を1組として畔の變るものを普通とし8本にて變るものもある。

經絲は細く且つ密に配置するも組織の關係上外觀

は美しからず、黒物を普通とし婦人洋服地或はネクタイ類に用ひらる。

佛國製の一例を示せば

經絲 10^{フニール} 片一本 諸練 黒染
 緯絲 24" 見當片 燃スーブル練 黒染 ¹⁰⁰/₁₀₀ % 増量、
 2本引揃へ
 羽數 1^{フニール} に 65羽 1羽 6本入り
 耳 片耳 9羽宛 引揃絲 4本入り
 打込 1^{フニール} に 103本位
 織縮 經 7% 緯 2%
 綜統 地 12枚 耳 4枚

米國に於けるネクタイ用ロヤールの製織標準を示せば次のやうである。

經絲 14^{フニール} 片一本 諸(燃數 ¹⁶/₁₀) 練染 錫増量 ¹⁰/₁₀ 或は ¹⁸/₂₀ ^{フニール}
 緯絲 14^{フニール} 三本或は四本片 スーブル練 タンニン 増量 ²²/₂₁ ^{フニール}

密度	經 絲		緯 絲		
	筈羽數	引込	太さ	合數	打込數
	60 [#]	4 [*]	三本片	2	76 [*]
	70	"	"	"	"
	80	"	"	"	"
	60	引揃 4	"	3	"
	—	—	四本片	1	80

92. ●●●●●
 ベンガリン

本來の毛緯ベンガリンは 14^{フニール} 片一本 諸練 純粹染め或は少しく増量せるものを 1^{フニール} 60羽の筈に 4本入り或は 80羽の 3本入りとし、太畔用緯絲として梳毛絲 ⁹⁰/₁₀₀ 番を打込む。

畔をポプリンの如く丸味に表はきんとすれば數本を同口に織込むよりも引揃への方が結果善く更に燃合絲の方が一層可良なる事は明かである、且其合絲數も多い程よい事も明かである。而して本例に示す如き 90番梳毛絲は毛絲としては可なり細い方にして主として佛國又は白耳義にて紡出される。

太畔の中間に配置すべき細絲は經絲と同一の諸燃絲を使用し、太細交互に 1本宛打込む時 1^{フニール} 内の打込數兩者合せて 100—110本位である。

太絲を數本同口に織込み幅廣き平なる畔を作る一例としては ⁹⁰/₁₀₀ 番を 7本同口とし此間に片一本諸或は二本片燃を 3本別々に織込み 1^{フニール} 間の畔數を 16本とせる物がある。

●●●●●
 布染ベンガリン

本來此種織物は絲染を本義とするも現今は布染物も多く用ひられる。經絲は 21^{フニール} 位の太き生絲 1本或は 2本引揃へとし ⁹⁰/₁₀₀ 或は ⁹⁰/₁₀₀ 番位の梳毛絲を打込み細絲には諸燃を使用す。更に太畔に太き單絲を使用

するものもある、其材料を精選し紡績法に注意を拂へば可なりに丸味のある糸を作る事が出来る。然しながら双糸又は三子諸に比して糸に毛羽多く織物の光澤を減ずる原因となる故に仕上に際し必ず両面瓦斯焼きを行ふ事が必要である。

綿緯ベンガリン

太畔には $\frac{3}{100}$ 番位の綿糸を用ひ細糸には細き綿糸又は諸燃糸を打込み1^{1/2}の畔數20乃至30本位である。

93. クレープ・フアイユ

フアイユを縮緬式に作り上げたものである、組織は接結經糸を用ひざる普通のフアイユ即ち單なる畔織とし、緯糸も太きものを數少なく打込む。

經糸は織上後の縮絨に依る光澤の減少を防ぐため生燃糸よりも生糸のまゝ用ふる事が多い。太きは21^{デニール}を普通とするも23, 25 或は27^{デニール}位の物も用ひられる。之を1^{1/2}に60, 65, 70 或は75羽の箆に3本引揃へ2本入り合計1羽6本入りとする。

緯糸は14^{デニール}の十二本片(1^{1/2}の燃數55—60)或は23^{デニール}の七本片(燃數60回)或は21^{デニール}の八本片強燃を1^{1/2}間に48本位右左2本宛交互に織込む。

箆幅46—48^{1/2}にて39—40^{1/2}に仕上げる、長さの織縮は少なく1—2%位見積れば十分である。

94. オットマン (ottoman)

フアイユ・フランセーズに相似たる平なる横畔を作れる織物である、接結經糸を使用せるものもあれ共普通は之を使用せず、經に絹糸を用ふるも緯には綿糸を打込む、畔は1^{1/2}に約20乃至40本位にして30本位が普通である、1畔を作るべき糸數は2本, 3本, 4本或は多數なる事もあり之に應じて組織は $\frac{2}{2}$, $\frac{3}{3}$, $\frac{4}{4}$ 等の畔織となる、極めて稀に $\frac{3}{1}$ 或は $\frac{4}{1}$ の如き畔織を使用せるものもある。

經糸 14デニール片一本諸練染を使用し綿緯糸を十分包むために1^{1/2}に400乃至600本の多數を使用す、極下等品は240本位の事もある。従つて箆の密度及引通は60×4, 65×4, 70×4, 75×4, 60×5, 65×5, 70×5, 60×6, 65×6, 70×6等の如くなり600本物は60×10となる。

緯糸 $\frac{3}{100}$ 或は $\frac{2}{100}$ 番綿糸(何れも瓦斯焼、シルケット掛け)

耳の組織は地が粗き畔織なる時は短かき畔即ち $\frac{2}{2}$ 位を使用す。

絹緯糸を用ひんとせば14デニール二本或は三本片練染 $\frac{2}{100}$ 増量を1畔4本, 6本, 8本或は10本位打込む。

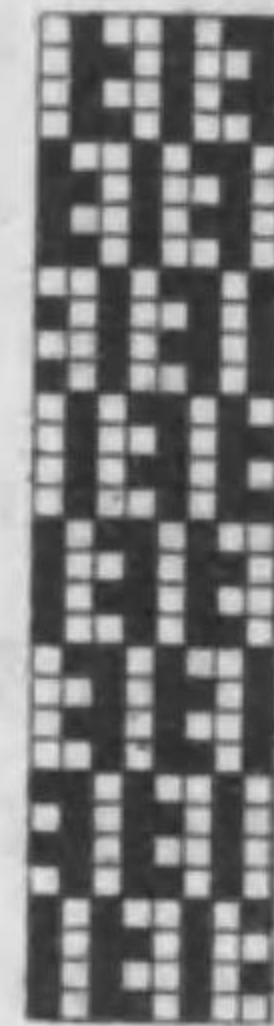
此種織物に表はさるゝ如き畔を特にオットマン・コードと稱する事がある。

●●●●●●●● (velours ottoman)

第 222 圖に示す如く構成は $\frac{4}{4}$ 畔織にして平組織の接結を配したるものであるが、フハイユ・フランセーズと異なり特別の接結経糸を有せず總ての経糸が順次之に使用せられて居る。此組織に依り糸の密度を適當に考慮すればオットマン形の織物を作る 第 222 圖事がある。

上等の佛國製の一例を示せば

經糸 12 デニール片一本諸練染
緯糸 同 二本片練染 3 本引揃へ
幅 61 センチメートル
筈 羽數 17-ス 60 羽
引通 1 羽 6 本入り



仕上幅 60 センチメートル
耳 片耳 12 羽宛 2 本引揃糸 4 本入り
綜統 地 8 枚 耳 4 枚
打込 17-ス 114 本
織縮 經 5% 緯殆んど無し。

95. ●●●●●●●● (グロ・ド・ロンドル)

其名稱の示す如くグロ・グラン系統の絹練横畔織物である、畔は太細 1 本宛交互に表はしたるものであるが其作り方としては種々ある中を第 135 圖に示す如き縦畔織を使用して作るのが普通である。

經糸は上等生糸の 14^{デニール} 片一本諸練染糸を 1^{インチ} 70 或は 75 羽位の筈に 1 羽 3 本入りとする、綜統は密度の關係上 6 枚として内 3 枚を單糸に残りの 3 枚を引揃糸に使用する、引揃糸と雖も同圖に示す如く綜統の別々の目に引通す。特殊の糸使ひとして 66-2×3×3, 80-3, 55-4, 60-4 の如くする事があるも之等は一般的で無く上記の如く 70 或は 75 羽の 3 本入りが種々の點より見て好ましい事である。

緯糸 14^{デニール} 片撚糸を數本引揃へて打込む、四本片の 2 本、三本片の 3 本、二本片の 4 本等の如き太さ及合せ數が普通である、打込數は 1^{インチ} に約 60 本見當とする。或は太畔は三本片の 3 本或は 4 本合せを用ひ細畔の所は 2 本合せを使へば太細が一層明瞭に表はれる、この打込方に依れば 1^{インチ} の密度は約 80 本位にするのが普通である。

經緯の色が共に黒である場合には緯糸はスーブル練にする事が多いが色物なれば専ら本練にする。

玉蟲物も多く又豫じめ經糸捺染せるものもある。

96. ●●●●●●●● (ハツク・タオル)

一般にハツク・タオルを其原料より區別すれば麻綿及綿麻交織の 3 種となる。この交織品は所謂半麻にして糸の使ひ方は麻絲が經なる事も綿絲が經なる事もあり一定して居らない。

通常ハツクの組織を用ひたる麻製の2例を示せば次のやうである。

	1	2
經絲	16 番半晒し	18 番半晒し
緯絲	20 "	15 "
密度	經 1 ¹ / ₂ に 40 本	45
	緯 48 "	39
箆幅	31 $\frac{1}{2}$ 寸	38 $\frac{1}{4}$ 寸
仕上幅	27 "	36
經絲長(100 ⁺ に付き)	107 ⁺	108
重量(1 ⁺ に付き)	7 ⁺	9 $\frac{1}{2}$

又デーヴオンハツクの輕目物の一例を示せば

經絲	30 番 $\frac{3}{4}$ 晒し
緯絲	25 " "
密度	1 ¹ / ₂ 寸に 58 本 × 28 本(2 本引揃へ)
箆幅	27 ¹ / ₂ 寸
仕上幅	25 "
經絲長	108 ⁺ (100 ⁺ に對し)

之等代表的織物の外に亞麻トウ絲の半晒し程度のものを使ひたる厚地物には織上後の仕上を殆んど行はないのがある、斯かる品を特にルームハツクと呼んで居る。

—〔終〕—

索引

(ア) の 部

相中太織	167
アイランタス絲	46
アイリッシュエボリン	212
明石	186
あさ	20
足利縮	174
網代斜紋	232
畔織	206
阿波縮	218
亞麻絲	16
甘燃	37
網目織	266
綾	127
綾(斜紋)	55
綾取	107
綾羽二重	190
綾小倉	194
綾縮緬	199
綾縮布	195
綜目綜統	107
アルバカモ	25
アンゴラ毛	24
アームア織	282

(イ)(井) の 部

板金綜統	108
イタリヤン・タロス	202
イタリヤン(綿)	203
一循環	54
五日市	210

一本綾	253
一本燃	34
絲織(金炭の)	100
絲入縮	150
絲入双子	151
絲織	177
絲製綜統	107
絲の直徑	117
絲好絹	163, 165
意匠紙	5
意匠紙の塗料	6
意匠紙の大きさ	8
意匠紙の割合	8
石綿絲	47
伊勢崎織	177
異面斜紋	59
イムベリヤル	237
イムベリヤル・サティーン	236
色絲の應用	68
英蘭西方式	22
インディヤ・リネン	143
インディヤ・リノー	143
印度マル	146

(ウ) の 部

ウインナエル	18
ウイキュナ毛	25
ウイーン式	22
ウエフト	2
ヴェネシヤン	237
ヴェネシヤン(綿)	237
ウオーブ	2

浮き絲 267
 薄皮繭 29
 薄琥珀 178
 欝織 206
 欝織梨地 281
 漆絲 48
 上懸 35
 雲齊織 195
 ウーステツド 21
 ウーステツド式 103

(エ), (ヱ) の部

エオリン 215
 エキストラクト・ウール絲 24
 繪絹 168
 エクル・シルク 45
 烏帽子縮緬 169
 エリヤ絲 46
 エルボー式 22
 エンド 2

(オ), (ヲ) の部

大麻 20
 大麦粒織 241
 黄麻絲羽二重 160
 黄麻絲 18
 岡木綿 143
 小川絹 165
 置のべ 127
 送し運動 5
 箴 4, 100
 箴打運動 4
 箴羽 100
 箴幅 106
 箴目 106
 箴線 106

箴(金) 100
 箴(竹) 100
 帯心木綿 134
 御召 185
 御召縮緬 185
 御召緯 186
 親兒織 246
 折返し絲 28
 織方圖 77
 織縮 106
 織物解剖表 82, 131
 織物設計表 82
 織物の名稱 82
 オルガンゼン 34
 女袴地 197
 オープン・バンド 121

(カ) の部

開口運動 4
 開口装置 74
 回収毛 23
 解剖 82
 解剖表 82, 131
 臥雲絲 15
 花巾 135
 掛 48
 掛絲 107
 掛田 28
 重ね縮子 235
 かざり 107
 飾り絲 49
 飾り晝夜 286
 飾り斜子 241
 飾り山道通し 74
 瓦斯絲 13
 瓦斯絹絲 50

瓦斯絹 149
 瓦斯袴地 197
 瓦斯双子 151
 認 11
 風織縮緬 169
 片一本諸 35
 片甲斐絹 185
 片三本諸 35
 片二本諸 35
 片羽大名 146
 片羽二重 152
 塊り絲 52
 片燃絲 12, 36
 片燃經絲 36
 カタン絲 108
 カツト 17
 カツト式 23
 葛城 194
 ガバーアイン 199
 甲斐絹 178, 184
 甲斐絹(緯) 151
 甲斐絹(絹) 178, 184
 甲斐絹(玉) 185
 甲斐絹(片) 185
 甲斐絹(輸出向) 184
 甲斐絹(高配) 184
 嘉平次平 210
 壁 172
 壁絲 39
 壁御召 186
 壁透綾 188
 壁縮緬 172
 壁ちよろ 172
 唐白仕掛 76
 ガラシルス式 22
 硝子絲 47

ガラ紡絲 15
 絹絲 50
 簡易斜紋 59
 簡易梨地 277
 間歇的山道通し 74
 觀光御召 186
 觀光朱子 201
 觀光縮緬 169
 緩斜紋 226
 完全組織 54
 乾燥紡出絲 16
 寒冷紗 141

(キ) の部

生絲 25
 生絲の増量 45
 器械生絲 26
 生絹 165
 偽金赤光箔 47
 偽金蛇腹赤絹心 48
 偽金絹心 48
 生染絲 45
 生斜子 220
 絹絲 44
 絹絲巻 39
 絹絹絲 50
 絹小倉 212
 絹縮 169
 絹上布 187
 絹心 48
 絹練絲 44
 絹袴地 208
 絹ベンガリン 246
 絹マル 146
 絹モスリン 173
 生皮学 42

生太織 167
 生目返し 45
 キヤシメヤ 57, 197
 キヤシメヤ毛 24
 キヤシユメヤ 56
 キヤリコ 135
 急斜紋 223
 京棧 150
 共通式 13
 生燃絲 34
 生燃經絲 34
 偽絹 274
 金絲 47
 銀絲 48
 錦紗縮緬 170
 金屬製綜統 108
 金箔 47

(ク),(ケ)の部

グアナツコモ 25
 鎖絲 53
 鎖縮緬 169
 管 4
 屑生絲 42
 屑耳 165
 雲絲 51
 蜘蛛巣織 266
 グルナダイヌ 37
 グレシヤン織 274
 クレープ・ジヨルセット 171
 クロス・バンド 121
 黒八 210
 黒八丈 210
 黒八(綿) 210
 グロリヤ 192

(ケ),(ゲ)の部

毛絲 21
 原組織 54
 ケンタツキ・ジエーン 196
 檢燃器 82
 絹紡 42
 絹紡軸絲 43
 絹紡緯羽二重 160
 絹縮セル 189

(コ),(ゴ)の部

號 44
 好貴 282
 高貴織 282
 高貴綾 282
 格子織 150
 公定水分量(生絲の) 33
 琥珀 211
 琥珀(薄) 178
 小節絹 164
 五枚縹子 60
 小間綜統 108
 小蘭絲 163
 ゴム絲 48
 子持大名 150
 コルドンネ 37
 混合通し 74
 コークスクリユース 51
 コークスクリユース織 252

(サ),(ザ)の部

ザイアル式番號測定計 115
 柞蠶絲 46
 サクソニー式 23
 座繰生絲 28

堤 40
 堤目 40
 さへり絲 52
 漣織 172
 指圖紙 5
 佐野縮 175
 三部通し 74
 サンヘンブ 26
 三本諾 35
 サージ 57, 188

(シ),(ジ)の部

ジエーン 51, 196
 ジエーン(ケンタツキ) 196
 ジエーンネット 56
 絰 162
 シサルヘンブ 20
 獅子毛絲 53
 下燃 35
 七枚縹子 63
 七里絲 29
 湯潤紡出絲 16
 支那向綿布 134, 135
 支那マル 146
 死龍繭 29
 芝垣織 286
 シフォン 173
 シフォンタフタ 182
 シフォン(綿) 173
 澁川太織 165
 鹽瀬 211
 鹽瀬羽二重 211
 四本片 37
 四本諾 38
 縹 149
 縹羽二重 161

縹見 82
 縹綿ネル 193
 縹木綿 149
 霜降絲 50
 霜降小倉 194
 尺一木綿 133
 尺二木綿 134
 尺三木綿 134
 シヤツプ縹絲 42
 シヤフト 107
 斜文 55
 斜紋 55
 斜紋織 55
 斜紋型呼織 253
 斜紋型斜子 242
 斜紋縹 55
 シヤルーン 57
 シヤーチング 130
 十二枚縹子 64
 縹子 59
 縹子入縹羽二重 161
 縹子織 59
 縹子通し 73
 縹子羽二重 203
 縹子(製光) 201
 縹子(綿) 201
 縹子(輸出向) 200
 循環 54
 順通し 72
 純粋染め絲 45
 純粋山道通し 73
 織機 3
 ショツク 18
 ショツクアイ絲 23
 ジヨルセット・クレープ 171
 シルクット 13

シルケット羽二重 161
 白葛城 194
 白絹 151
 白袖 167
 白ネル 193
 白木綿 133
 新御召 186
 シングル・ホプリン 213
 人造麻絲 49
 人造毛 23
 人造絹絲 48
 伸張斜紋 223
 シーチング 57, 135

(ス) の 部

水車紡績絲 15
 スウイス・マル 146
 すが 40
 管絲 34
 透綾 187
 透綾明石 187
 透綾壁 188
 スタック式番號測定計 113
 ストックボルト式 102
 ストラツトルト 36
 ストラフヒラト 36
 砂梨地 281
 スピンドル 16
 スラブ絲 52
 スレツド 2
 スワンス・ダウン 235
 スーブル・シルク 44

(セ), (ゼ) の 部

整經 125
 整經長 124

精好平 210
 精撰(生絲の) 27
 正則呼織 216
 正則斜紋 59
 正則斜子 219
 正晝夜 285
 正量 33
 石綿絲 47
 セダン式 22
 設計表 82
 接結呼織 247
 接結絲 242
 接結斜子 223
 節約通し 73
 セノア 56
 セリシン 44
 セル 188
 セル地 188
 セルチス 188
 千筋 149
 織度 25

(ジ), (ジ) の 部

機壁 188
 綜統 3, 107
 綜統絲 108
 綜統散 78
 綜統通し 70
 增量(生絲の) 45
 增量絲 45
 組織 1
 組織學 2
 粗布 135
 ソフト・シルク 44
 梳毛絲 21
 ソレール織 252

(タ), (ダ) の 部

ダイアゴナル 59
 大斜紋 59
 大名 149
 ダイアモンド絲 52
 臺灣綿布 133
 高崎絹 163
 濃縮 150
 タツサ絲 46
 縦呼織 217
 經絲 2
 經絲呼織 206
 經絲コークスクリユー 253
 經絲面斜紋 56
 經斜紋 56
 經縞子 62
 經卷 3
 縦山道斜紋 232
 經緯コークスクリユー 256
 足袋底地 196
 タフタ 179
 タフタグラセー 182
 タフタ(カメレオン) 182
 タフタ(布染め) 183
 タフタリン 183
 タベット 75
 玉 13
 玉絲 42
 玉甲斐絹 185
 玉絹 166
 玉立絹 164
 玉縞絹 168
 玉紡絲 44
 玉蘭 42
 玉島 182

ダマスク 86
 単一綜統 107
 炭化法 24
 單絲 12
 タンタンピース 201
 單綜統 107
 段縮緬 169
 ダンアイ式 102

(チ) の 部

千切 3
 知多木綿 133
 秩父裏 166
 秩父絹 165
 縮 174
 チベット毛 24
 千巻 3
 朝鮮綿布 133
 茶葛城 194
 直径(絲の) 117
 中央接結斜子 241
 晝夜斜紋 285
 チュリン舊式 32
 チュリン新式 32
 縮緬 168
 チリメン吳呂 190
 縮緬緯 37
 散好絹 163
 チロリン 247

(ツ) の 部

通常斜紋 59
 通常蜂巢 160
 通常ハツク 272
 軸 178
 軸絲 42

軸(白)..... 167
軸(新屋)..... 168

(テ),(チ)の部

手..... 100
手織機..... 5
デニール..... 25
デユースペリー式..... 103
天置絲..... 46
天竺木綿..... 134
デーヴォン・ハツク..... 271

(ト),(ド)の部

度..... 101
トウ..... 120
トウイスト..... 121
同功織..... 42
唐縮緬..... 190
特別蜂巢織..... 264
飛び斜紋..... 228
飛び敷..... 60
飛び通し..... 74
ドビー機..... 76
トラム..... 36
ドラム法..... 33
塗料..... 6
ドリル..... 194

(ナ)の部

ナイフ..... 76
梨地..... 277
斜子織..... 218
斜子(生)..... 220
斜子(練)..... 220
斜子(半練)..... 220
斜子(綿)..... 220

斜子ハツク..... 273
波形斜紋..... 230

(ニ)の部

新屋軸..... 168
二重千切..... 129
二部通し..... 74
二本諾..... 35
ニュージーランド亞麻..... 20

(ヌ)の部

布染め・フタ..... 183
布巻..... 4
ぬめ..... 203

(ネ)の部

ねぢれ模機..... 266
ネツブ絲..... 52
練絲..... 44
練減..... 44
練透綾..... 187
練斜子..... 220
練緯羽二重..... 159
ネル(白)..... 193
ネル(綿)..... 193
燃絲..... 34

(ノ)の部

熨斗絲..... 42
ノツブ..... 52
ノツブ絲..... 52
糊付マル..... 146

(ハ),(バ),(パ)の部

羽..... 100
博多..... 211

袴地(女)..... 197
袴地(瓦斯)..... 198
袴地(絹)..... 208
袴地(綿)..... 220
袴地(燃)..... 198
箔..... 47
箔絲..... 47
ハスブ..... 18
バスケット..... 218
機装置..... 70
機のべ..... 126
機へり..... 126
バチスト..... 142
バチスト・クレヤー..... 142
バチスト・デミクレヤー..... 142
バチスト・ホルランデー..... 142
バチスト・リネン..... 142
バチスト(綿)..... 142
蜂巢織..... 260
蜂巢ハツク..... 273
蜂巢(通常)..... 260
蜂巢(特別)..... 264
蜂巢(ブライトン)..... 263
八本片..... 37
八枚縞子..... 63
ハツクアバツク織..... 271
ハツクアバツク・タオル..... 274
ハツクアバツク通し..... 272
バツク・スキン..... 239
ハツダースフィールド式..... 107
ハツブサツク..... 218
羽二重..... 151
羽二重更紗..... 151
羽二重(片)..... 152
羽二重(川俣)..... 152
羽二重(重目)..... 152

羽二重(軽目)..... 153
羽二重(内地向)..... 151
羽二重(綿)..... 161
羽二重(輸出向)..... 152
張..... 42
針金..... 47
針金綜絊..... 108
パワールーム..... 5
番號..... 10
番號測定計..... 113
萬國織度..... 32
萬國織度會議..... 32
半セル..... 188
番手..... 10
バンドル..... 17
ハンドルーム..... 6
半練..... 44
半練斜子..... 220
半紡..... 134
ハーウイツク式..... 22
ハーネス..... 107

(ヒ),(ビ)の部

杼..... 4
引き上げナイフ..... 69
引揃絲..... 34
杼口..... 4
菱形コークスクリユー..... 255
菱形斜紋..... 258
左燃..... 121
ヒツク..... 2
杼投運動..... 4
杼道..... 4
ヒヤロ..... 12
ヒヤロ絲..... 17
俵..... 13

標準重量 10
 標準長 10
 表面(織物の) 110
 平絲 34
 平石疊織 287
 平織 2, 54
 平絹 162
 平金 47
 平透綾 187
 平耳 163
 平リツプ 248
 擴げ織子 234
 ヒーヤ 17
 ビーヤ 102
 ヒールド 107

(フ), (フ) の部

フアナツコモ 25
 ファーリング 2
 不規則畔織 216
 不規則織子 233
 節絲 42
 節絲織 177
 節絲平 210
 節織 177
 不正晝夜 285
 双子 151
 双子絲 12
 双子持 150
 双子(絲入) 151
 双子(瓦斯) 151
 双子(燃) 151
 二つ崗 42
 藤山絹 163
 普通(生絲の) 27
 普通の山羊毛 24

フツク 76
 ぶとり 162, 164
 太織 162, 164
 太織(相中) 167
 太織(生) 167
 太織(澁川) 165
 太織(細) 166
 太織(山膚) 164
 フハイユ 247
 フハガラ絲 46
 踏木 75
 踏木式 74
 踏木敷 78
 フランネル(綿) 193
 プライトン蜂巢織 263
 ブラッドフォード式 102
 ブランケット 57
 フロレット絹絲 42
 フワンシーヤーン 49
 分別通し 74

(ヘ), (ベ) の部

平均燃 122
 ヘツドル 107
 變化畔織 243
 變化斜紋 50
 變化組織 206
 變化斜子 240
 ベンガリン 246
 辨度 150

(ホ), (ホ), (ホ) の部

ホアール 34
 紡績絹絲 42
 紡績緞 168
 紡毛絲 22

細綾木綿 197
 捕捉絲 207
 細太織 166
 保多織 274
 ボタン 52
 ボタン絲 52
 ボヘミヤ式 23
 ボルトン式 102
 ホルムフハース式 103
 本甲斐絹 178, 184
 本金赤光箔 47
 本金青金箔 47
 本金絹箔 47
 本金絹心 48
 本金蛇腹赤絹心 48
 本金綿心 48
 本國白木綿 138
 本セル 188
 ボンド絲 16
 本耳 165
 ボーター 102
 ボード・シイヌ 238
 ホールランド式 20
 ボーレット絹絲 43

(マ) の部

曲がり斜紋 256
 曲がりコークスクリユー 255
 巻取運動 5
 捲毛絲 53
 マツクレスフィールド式 102
 マット 218
 マニラ・ヘンプ 20
 マリナ 29
 マリネ 29
 マル 146

マンゴー絲 24
 滿州綿布 133
 萬筋 149

(ミ) の部

みがき 163
 磨絲 166
 研絲 163
 三河中紡 134
 右燃 121
 三子譜 35
 微塵綿 150
 耳 126
 耳絲 126
 ミラン舊式 31

(ム) の部

ムガ絲 46
 無双綜統 107
 ムーンガ絲 46

(メ) の部

銘仙 177
 目硝子 108
 目金 108
 目付 152
 メツサリン 204
 メアイカル・ハツタ 271
 メレンス 190
 メリンス 190
 綿絲 10
 綿紡 44
 綿心 48
 綿鬚絲 50
 綿甲斐絹 151
 綿ベチスト 142

綿羽二重 161
 綿ホブリン 213
 綿シフォン 173
 綿縮 174
 綿セル 189
 綿ネル 193
 綿フランネル 193
 綿縮子 201
 綿袴地 210
 綿黒八 210
 綿緯エオリン 216
 綿斜子 220
 綿グエネシヤン 237
 メートル式 14

(モ) の 部

空燃絲 50
 モツトル 50
 モヘヤー毛 24
 模微紗織 274
 模紗 274
 モスリン 190
 紅絹 162
 木綿絲 10
 木綿織 149
 諸絲 12
 諸絲の燃 121
 諸燃絲 12, 34
 紋板 77
 紋控 77
 紋控の植え方 80
 紋リップ 249
 紋標梨地 278

(ヤ) の 部

山羊毛 24

野蠶絲 46
 やたら織 150
 八つ橋 286
 破れ 222
 破れ斜紋 221
 破れ通し 74
 山邊里平 208
 山崎絲 46
 山崎入縮緬 171
 山崎太織 164
 山道斜紋 230
 山道通し 73

(ユ) の 部

誘導組織 206
 輸出向輕目縮緬 171
 輸出向縮子 200
 輸出向羽二重 152

(ヨ) の 部

洋傘地 191
 洋服裏地 190
 洋標 134
 横咩織 206
 緯絲 2
 緯絲咩織 217
 緯絲コークスクリユー織 255
 緯絲面斜紋 56
 緯入運動 4
 緯斜紋 56
 緯縮子 62
 横山道斜紋 230
 吉野織 245
 燃 117
 燃合絲 12
 燃絲 34

燃金 47
 燃數 119
 燃双子 151
 燃の角 117
 燃の原理 117
 燃の方向 121
 燃乘數 122
 ヨークシヤー式 22

(ラ) の 部

ライン 120
 駱駝毛 24
 螺旋絲 51
 ラスチング 236
 ラッドクリップ式 102
 ラマ毛 24
 ラミー絲 20
 ラム・スキム 236
 ラン式 23
 ランス・ダウン 192

(リ) の 部

リオン舊式織度 31
 リオン新式織度 32
 力織機 5
 リップ織 248
 リップ(平) 248
 リップ(模様) 249
 リノーン 143

裏面(織物の) 110
 両面斜紋 58
 両面緯縮子 237
 リール 20

(ル) の 部

ルイジン 221

(レ) の 部

レアリ 29
 レアリツシナ 29
 レアリナ 29
 レアリネ 23
 レーン・クロス 227

(ロ) の 部

六枚縮子 63
 轆轤仕掛 75
 六本片 37
 六本諸 35
 ロング・クロス 144
 ローン 145

(ワ) の 部

粹 126
 輪奈絲 53
 割壁 188
 灣曲斜紋 230

補遺

(ア) の部

亞麻絲 289
綾羽二重 328

(イ), (井) の部

石綿絲 307
伊勢崎向絹紡 305
色耳縞子 338

(ウ), (ウ) の部

ヴェネシヤン 344
ヴェール 329
ヴェアール 329
ヴェアール絲 329
ヴェアール・ド・コットン 329
ヴェアール・ド・ソア 331
ヴェアール・ド・レーヌ 331
ウオーグン・エツジ・リボン 312
ウーステツド絲 292

(エ), (エ) の部

エル 296

(オ), (ヲ) の部

黄麻絲 290
大麻絲 292
御召 334
オンス法 301
オーヌ 296
オーヌ・デニール式 297

(カ) の部

カット・エッジ・リボン 312
川俣羽二重 318
壁 328
カレー・オーヌ 296
廣東器械製絲 298

(キ), (ギ) の部

生朱子 327
絹縞子 339
舊式織度 297
生燃絲の織度 300
生燃絲の燃數 299
ギリシヤ朱子 340

(ク), (ク) の部

屑廣 342
クルトン 345
グルナアイヌ 332
クレープ・ジョルセット 325
クレープ・シヤルムーズ 325
クレープ・ド・シーヌ 323
クレープ・マロケヌ 325
クレープ・メテオール 337
グリーン式 294
グロ・グラン 343
グロ・ド・ヴェニス 344
グロ・ド・ツール 344
グロ・ド・ナール 344
グロ・ド・リヨン 344
グロ・ド・ロンドル 344

クロ・フート斜紋 344

(ケ) の部

經綸織 334
絹袖 318, 329
——支那 319

(コ), (ゴ) の部

コットン・バック・サティン 338
ゴム絲 308
コード絲 313
コード織 313

(サ) の部

サタン・グレク 340
サタン・クレープ 340
サタン・シヤルムーズ 340
サタン・デュシユーズ 339
サタン・ド・ブルーズ 341
サタン・フートル 341

(シ), (ジ) の部

自動車タイヤ地 313
支那生絲 298
支那絹袖 319
四分の三練 305
四分の三漂白 290
鹽瀬 341
鹽瀬御召 342
ジャップ・シルク 317
ジャパニース・シルク 317
ジャボンヂ 321
シヤンタン 318
シユラー 335
重量計算 309
ジュート絲 290

ジョルセット・クレープ 325
シレシヤ 337

(ス) の部

スタンダード・フラット・ビルダー 313
スパン・シルク 322
ス 295

(セ), (ゼ) の部

石綿絲 307
セコ・シルク 321
ゼノア・デニール 295
全漂白 290

(ソ), (ゾ) の部

增量歩合 306
梳毛絲 292

(タ) の部

タイプライター・リボン 312
タイヤ地 313
經緯縮縮 328
タブ・シルク 321
タフタ 333
丹後向絹紡 305
タンタン・ピース 337

(チ) の部

チエーフハー 315

(テ), (テ) の部

デニール 294
——ゼノア 295
——トウルノア 265
——パリー 295
テープ 312

(ト), (ド) の部

デュザーン 295
トウルノア・デニール 295

(ナ) の部

捺染織子 338

(ニ) の部

ニッポンチー 321

(ヌ) の部

布染め 338

(ハ), (バ) の部

羽絲 308
羽二重 317, 327
バリー・オーヌ 296
バリー・グリーン 295
パレス・クレープ 324
半練 305
半漂白 289

(ヒ), (ビ), (ピ), の部

飛行機翼用綿布 316
ビューア・ヤーン 307
ビルディング織 315
ビルディング・スクヤー・ウォーグン 313
廣 342
ビード織 315

(フ), (フ) の部

富士絹 322, 329
フハイユ 345
フハイユ・ヴルール 345
フハイユチーヌ 345

フハイユ・フランセーズ 345
ブライト練 306
ブラッドフォード式 292
佛蘭西縮緬 323
ブリーカー織 316
フールミエ式 294

(ホ), (ボ), (ポ), の部

紡織絹絲 305
紡毛絲 294
ホプリン 342
ボンジー 318
本練 305

(マ) の部

マットレー氏改良デニール法 297

(ミ) の部

ミ・キー 306

(メ) の部

銘仙向絹紡 305
綿織子 338
綿ネル 335

(モ) の部

紋パレス 324

(ヤ) の部

ヤーデージ 301
ヤード・ボンド式 300

(ユ) の部

輸出壁 328
輸出縮緬 328

(ヨ) の部

洋黒八 341
洋八 341

(ラ) の部

ラミー絲 291
ラムス式 294

ラン式 294

(リ) の部

リパチー・サティン 341
リボン織機 312

(ル) の部

ルーベ式 293

再 補

(ア) の 部

アイリッシュ・ボブリン 377
 アメリカン 371
 アメリカン・シーチング 371
 アメリカン・トウシル 371
 アルゼンチナ 369
 アルバート 371

(イ),(井) の 部

石棉織 366
 石棉ガーメント 366

(ウ),(ヴ) の 部

ウィツク絲 351
 ヴイクトリヤ 371
 ヴオパール 361
 ヴルール・オットマン 388

(オ),(ヲ) の 部

オーストリア 369
 オーストリア斜紋 369
 オツクスフォード・シヤーチング 382
 オットマン 386
 オットマン・コード 387

(カ),(ガ) の 部

カット 356
 カーディング 352
 カーテン(防火用) 367
 ガラティー 367
 廣東クレープ 357

(キ),(ギ) の 部

氣球用綿布 352
 絹ボイル 363
 生綿絲 349
 キヤシユメヤ 370
 ギンガム 333

(ク),(グ) の 部

屑綿絲 350
 グレー・グーズ 350
 クレープ・エリザベス 359
 クレープ・フハイユ 386
 グレー綿絲 349
 グロ・ド・ロンドル 388

(コ) の 部

古漬縮緬 376
 コーマー 351
 コーミング 351
 コンアンサー絲 350
 コンアンサー・シーチング 371
 コンモン・ギンガム 353

(サ) の 部

サタン・デユシユーズ 374
 サタン・ド・リヨン 372
 サタン・ド・リヨン・クレープ 372
 サタン・メルベユ 375
 サティン・ドリル 369
 晒絲 349

(シ) の 部

シーチング 370
 シフォン 360
 シフォン・クレープ 359
 シフォン・タフタ 361, 364
 シフォン天蓋絨 361
 縮シヤツ地 382
 シヤルーン 371
 シルカチーン 349
 シルケツト綿絲 349
 シンダル・ウオツプ・オツクスフ
 オード 383

(ス) の 部

ステーブル・ギンガム 353
 スパン・クレープ 360

(セ),(ゼ) の 部

精梳綿 351
 セツフハー 353
 セツフハー・ギンガム 354
 セナツピング 378
 セルセ・フーラー 374

(タ),(ダ) の 部

ダツチ・テープ 382
 單絲ボイル 362
 單絲ボブリン 379
 ダンガリー 370

(テ),(デ) の 部

デーグオン・ハツク 390
 デニム 370
 テープ 381
 電氣テープ 367

(ト),(ド) の 部

トウイスト・オン・トウイスト 362
 ドウテイス 355
 トブラルコ 381
 ドリル 368
 ドリレット 369

(ナ) の 部

ナンキン 369

(ニ) の 部

ニノン・ボイル 362

(ヌ) の 部

布染ベンガリン 385

(ハ),(バ) の 部

バタビヤ 373
 バチスト・モスリン 366
 ハツク・タオル 389
 バルーン仕上 352
 ハーグワード・シヤーチング 383
 バンプ絲 350
 半ボイル 362

(ビ) の 部

ビートライス 371

(フ),(フ) の 部

フラツト・クレープ 358
 プリンセス 371
 プレーン 366
 フロランチン 368
 フーラー 373

(ヘ), (ベ) の部

- ヘツディング 356
- ベッド・シーティング 370
- ヘヤーコード 380
- ベンガリン 385

(ホ), (ボ), (ポ) の部

- ボイル 361
- ホブリネット 379
- ホプリン 377
- ホルダー 356
- ホルトン・シーティング 370
- ホロネーズ 374
- 本ボイル 361

(マ) の部

- マドラス 355
- マドラス・ギンガム 354
- マドラス・シヤーチング 354
- マドラス・ハンカチーフ 355
- マーベル 371

(ミ) の部

- ミユール紡出絲 351

(メ) の部

- メタリック・クロス 366
- メタリック・ヤーン 366
- 綿テープ 381

- 綿ボイル 361
- 綿ホプリン 378
- 綿緯朱子 376
- 綿緯ベンガリン 356
- 綿緯ホプリン 378

(モ) の部

- 模倣ボイル 362
- モスリン 365

(ラ) の部

- ラヂウム 365
- ラヂウム・タフタ 365

(リ) の部

- リパーチー・サティン 376
- リング紡出絲 351

(ル) の部












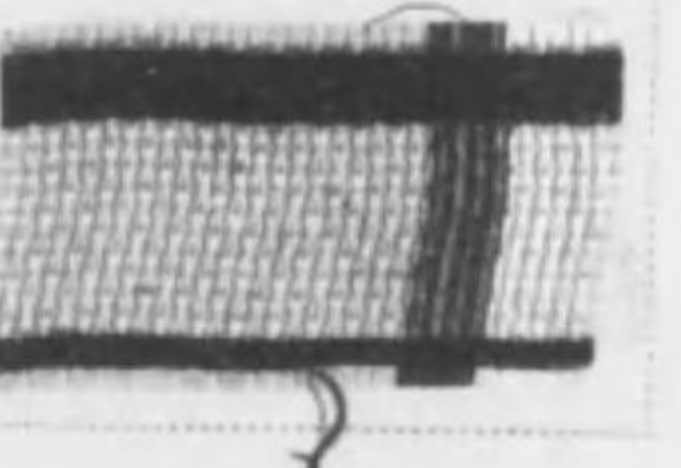
- ルイジン 381
- ルーム・ハック 390

(レ) の部

- レガッタ 369

(ロ) の部

- ロヤール 383
- ローゲイング絲 351
- ロー・セツフハー 383

	氣球用綿布		綿緯富士絹
	佛蘭西縮緬(生)		佛蘭西縮緬(練)
	シッオン・クレープ		ギンガム
	綿縮子		靚光縮子
	フハイユ・フランセーズ		グルー・オットマン
	蜂巢織		縮子入模倣紗織

大正七年九月九日印刷・大正七年九月十日發行
昭和五年十二月五日再補第四版印刷
昭和五年十二月八日再補第四版發行

~~~~~  
**著作權登錄**  
~~~~~

內外組織及製造學正編・定價金 四 圓



著 作 者 吉 田 喜 一

發 行 者 東京市日本橋區通二丁目六番地
丸 善 株 式 會 社
代表者 取締役 山 崎 信 興

印 刷 者 東京市京橋區榮地二丁目二十二番地
大 久 保 秀 次 郎

印 刷 所 東京市京橋區榮地二丁目二十二番地
株式會社 東京築地活版製造所

~~~~~  
**發 行 所**

東京市日本橋區通二丁目  
**丸 善 株 式 會 社**  
(價目口庫東京第五卷)

---



---

## 丸善株式會社

### ▶支店及出張所◀

|                                        |             |
|----------------------------------------|-------------|
| 東京市神田區表神保町<br>振替口座〔東京第二八一六番〕           | 神 田 支 店     |
| 東京市芝區三田二丁目<br>振替口座〔東京第一一八五二番〕          | 三 田 出 張 所   |
| 東京市牛込區早稻田鶴巻町(早大正門前)<br>振替口座〔東京第七五三七五番〕 | 早 稻 田 出 張 所 |
| 東京市麹町區(丸ノ内ビルディング)<br>(一 階 北 道)         | 丸ノ内 賣 店     |
| 大阪市東區博勞町四丁目<br>振替口座〔大阪第七四番〕            | 大 阪 支 店     |
| 神戸市明石町參拾壹番(元居留地)<br>振替口座〔大阪第六八六七七番〕    | 神 戶 出 張 所   |
| 京都市中京區三條通鉄屋町西入<br>振替口座〔大阪第一七三番〕        | 京 都 支 店     |
| 名古屋市中區榮町六丁目<br>振替口座〔名古屋第一〇二九番〕         | 名 古 屋 支 店   |
| 横濱市中區辨天通二丁目<br>振替口座〔東京第七四番〕            | 横 濱 支 店     |
| 福岡市博多上西町<br>振替口座〔福岡第五〇〇〇番〕             | 福 岡 支 店     |
| 仙臺市國分町五丁目<br>振替口座〔仙臺第一五番〕              | 仙 臺 支 店     |
| 札幌市北八條西四丁目<br>振替口座〔小樽第一〇八〇〇番〕          | 札 幌 出 張 所   |
| 京城府黃金町一丁目一六七<br>振替口座〔京師第三四四番〕          | 京 城 出 張 所   |

---



365-123□



1200501415976

365  
23

終